

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	コミュニケーション育成型 児童デイ ぐりーていんぐ		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ 8年 2月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	8年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	トータルサポートで将来の不安の軽減を図っている。	活動予定に定期的な法人内の就労支援B型への作業所体験を取り入れ、相談会を実施しており、卒業後の進路決定がスムーズな意向が出来るようにしている。	将来だけではなく現在の生活の中での保護者様の不安や困りごとを聞き取り、必要な福祉サービスを教示して繋げていく事で、ご家族での生活の一助となるようにしていく。
2	入浴サポート	生活に必要なADLを身につけられるよう、また清潔感、身だしなみを本児にも保護者さんへもサポートを行っている。	ご家庭で入浴が自立でき、自宅での負担を少しでも軽減できるようにしていく。
3	二部屋あり静と動の切り替え、環境によっても使い分けられる。	学習ニーズや運動ニーズ共に応える事が出来、児童のストレスが軽減されている。また、切り替えの部分で部屋を区切る事で気持ちを落ち着かせる事が出来る。	学習机も完備しているため、座る体勢で体幹を鍛え頭の回転をスムーズに行えるようにしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	書類業務・事務作業の効率化	記録・計画・連絡等が個別最適で運用されている部分もあり、様式や手順が統一されきれていないことがある。	様式の本一化と入力項目の簡素化を行い、定型化できる業務はテンプレ化するよう取り組む。
2	進路支援が法人内資源にやや依存している可能性がある。	法人内就労支援B型との連携が中心で、外部選択肢の網羅性が十分とは言えない可能性がある。	外部事業所情報を一覧化し、比較検討の仕組みを整えると同時に、法人内の進路選択が増えるよう法人全体で取り組んでいく。
3	緊急対応	マニュアルは整備されているが、実践想定役割分担や判断基準が個人差に依存する部分がある。	場面別の簡易フローチャートを作成し、年1回ロールプレイ訓練を実施する。